



痛風といわれたときに 受ける検査

日本臨床検査医会 三宅 一徳 氏

痛風とは

痛風は、尿酸という物質が体内に蓄積し、これが関節中に結晶として析出し、関節炎を引き起こす病気です。また、尿酸が腎臓で析出すると尿路結石症や、腎機能障害の原因となり、放置すると腎不全にまで進行する可能性のある病気です。

尿酸はDNAなどの核酸を構成する成分の一つであるプリン体という物質から作られ、腎臓から尿中に排泄されています。プリン体は食物中（特に肉、魚、豆類など）に含まれる成分ですが、体内（肝臓）で大部分が合成され、これから尿酸が作られています。

体内のプリン体が増加して尿酸が過剰に産生されたり、腎臓からの尿酸排泄が低下すると、血液中でも尿酸の値が高値となります。この状態を高尿酸血症と呼びます。血清尿酸値が7.0mg/dlを越えると、組織への析出、沈着が起こりやすくなります。

尿酸値は基本的な検査の一つとして広く測定されますので、関節炎のない患者さんでも高尿酸血症が見いだされることがあります。

痛風・高尿酸血症の検査

痛風をはじめとする高尿酸血症では、尿酸が蓄積する原因を調べる検査、合併症としての腎障害や尿路結石の有無を調べる検査を受けていただきます。また、高

血圧症、狭心症などの虚血性心疾患、糖尿病、高脂血症が高頻度に合併するため、これを調べる検査も行って治療方針を決定します。通常以下のような検査をまず行います。

一、尿検査…蛋白尿や血尿の有無を調べ、尿中成分を観察します。痛風による腎障害の有無を調べると同

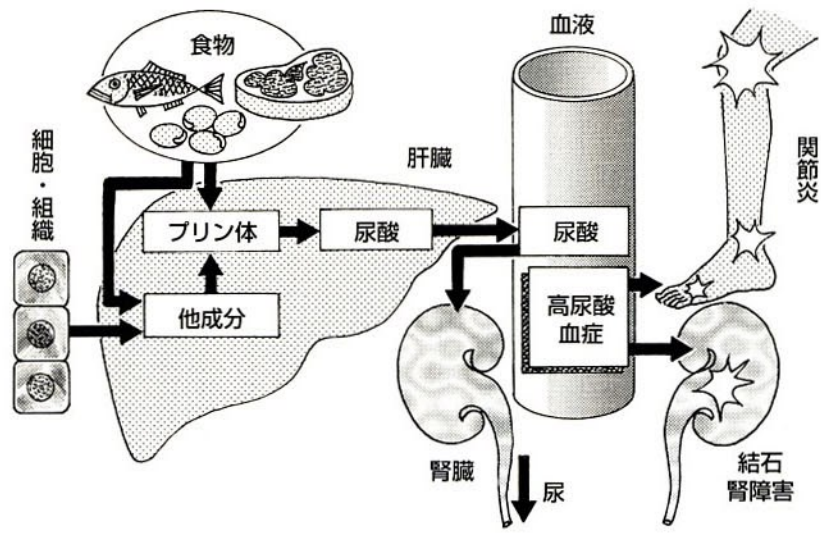
刺がないかどうかを知る検査も行います。

三、心電図、胸部X線検査…高血圧や虚血性心疾患の有無を調べます。

必要に応じて以下の検査も実施します。

四、クリアランス検査…一定時間の尿をすべて採取（蓄尿）して尿中、血中の物質濃度を比較し腎臓から

尿酸代謝と痛風（高尿酸血症）



時に、痛風以外の原因による腎障害が尿酸排泄低下の原因となっていないかどうかを知るための検査です。

二、血液検査…血中尿酸値を測定するとともに、腎機能、肝機能の評価、糖尿病、高脂血症の有無を調べる一連の検査を実施します。また、炎症の程度や組織破壊による尿酸の産生過

の排泄能を調べます。

五、画像診断…超音波検査などにより腎臓への尿酸沈着を調べます。

六、関節液穿刺検査、組織生検…関節液や皮下の結節に尿酸を含む結晶が存在することを顕微鏡的に確認する検査で確定診断に用います。